

## 彗星発見者リード氏逝く

過去十年間に、最も多くの彗星発見をやつた名物男 William Reid 氏が去る六月8日に死んだ——この事は同月10日頃の各新聞紙が南阿Capetown 發の電報として載せてゐる所である。

Reid 氏は南アフリカの英領 Cape Province 州、Capetown 市外の Rondebosch 町に住んでゐたアマチュア天文家であつて、生れは1861年であつたといふから、今年には67歳の老齡であつた。しかるに1917年以來最近に至るまで續け様に多くの彗星を発見した元氣を見るに、優に壯者をしのぐ有様は實に驚嘆すべきものであつた。ところが、今までとても常に身體強健といふわけでは無かつたらしく、むしろ可なり頻りに病臥したらしい消息も傳へられた。現に本年二月10日、英國 Royal 天文學會の總會に於いて、Steavenson 氏と共に Jackson-Gwilt 賞牌を授與せられた時にも、Reid 氏自身は病臥して、よほどの重態にあつたらしい、恐らく此の病が益々重くなつて遂に起たなくなつたものであらう。非常に惜しい事である。

Reid 氏はクク製の「6吋」赤道儀を持つて、十年間に十回の彗星を発見したレコードの持ち主である。「天界」にも今まで度々其の名を載せた。今、下に氏の発見した彗星の一覽表を示すこ、

- (1) **Encke** 彗星(第34回出現)1917c=1918 I. 1917年十二月31日発見。但し此の前日にドイツの Schorr 教授が獨立に発見したから、Reid 氏の名は出なかつた。
- (2) **新彗星** 1918a=1918 II. 1918年六月12日発見。
- (3) **新彗星** 1921a=1921 II. 1921年三月13日発見。(「天界」第1巻第222頁)
- (4) **Encke** 彗星(第35回出現) 1921d=1921 IV. 1921年七月27日発見。Skjellerup 氏と同日で、僅かに遅る。
- (5) **新彗星**1922a=1921V. 1922年一月24日発見。(「天界」第1巻第97頁第111頁)
- (6) **Grigg** 彗星(第2回出現), 1922b=1922I. 1922年五月6日発見。Skjellerup 氏より僅かに數時間遅る。
- (7) **D'Arrest** 彗星(第8回出現). 1923b=1922II. 1923年十一月10日発見。(「天

界]第10巻第65頁)

- (8) **新彗星** 1924a=1924I. 1924年三月30日発見。(「天界」第IV巻第165頁)  
 (9) **新彗星** 1925b=1925II(?). 1925年三月20日発見。(「天界」第V巻第154,  
 187, 280頁, 同第VI巻第77, 357頁, BULLETIN第47號, 第77號)  
 (10) **新彗星** 1927b=1926VII. 1927年一月26日発見。(「天界」第VII巻第172,  
 211, 428頁, BULLETIN第103, 108號)

上に記した如く、今年二月のローヤル天文學會で Reid 氏は賞牌を授與されたが、其の式場で會長 Phillip 師が Reid 氏の學蹟を稱揚した演説を茲に譯出して、氏の靈を弔ふこころしやう。

『(前略). 1861年, Jackson-Gwilt 夫人が本會に300ポンドの3分利付き新公債を寄附することを申し出られました時、夫人は此の公債の割り前を以つて適當なる時機に、天文學の進歩に著しき貢獻をした人々に與へるやうにこいふ意志を表明されました。そして此の學術的貢獻の性質については何も制限を置かず、ごく廣い意味ではありましたけれど、夫人は恐らく、好い書物の著述や、新しい天文器械の發明や、新しい天體の発見などを意味してゐられたこころ考へます。夫人は1893年十二月に死なれましたが、其の後、1897年に初めて此の賞牌が授與されることになりました時、當時の有名な彗星発見者 Lewis Swift 氏が其の選に入りました。今年、また、わが評議員會は此の Jackson-Gwilt 賞牌を彗星発見者 William Reid 氏に與へるこころ致しました。Reid 氏は南阿 Cape 州 Rondebosch の人でありまして、其の後年の學蹟から見てふさはしくも、かの「1861年の大彗星の光芒の下に於いて生れた」人であります。

『Reid 氏の實際の発見は6回以上に上ります。尙氏は 1922I (Grigg-Skjellerup)彗星を、Skjellerup 氏と同じ夜獨立に発見したのでありますが、Skjellerup 氏の方が一二時間早かつたものでありますから、Reid 氏は此の彗星に自己の名を附せないやうに希望しました。氏は又1921年にも、Skjellerup 氏と同じ夜に Encke 彗星を見付けました。それから1923年には、初め新彗星だと思つたものを発見しましたが、後に之れは d'Arrest 彗星ださ分りました。此の発見は特に價值の高いものであります。何さなれば、此の彗星は約6年半の週期を持つもので、幾度も搜索が行は

れましたに拘らず、遂に不成功であつた結果、殆んど見棄てられてゐたもので、それで此の彗星は當時もはや永く見失はれる危期に望んでゐたものです、Reid 氏の発見は全く豫期以上の吉報であつたのであります。

『Reid 氏が事実上の唯一発見者である 6 個の新彗星の第一は 1918 II であります。これは圓い星雲状の天體で、拋物線の軌道を運行してゐました。第二は 1921 II ですが、これは近日點で光りが 5 等級にもなり、其の一週間前には 40' ほどの長い尾が Heidelberg 天文臺で寫眞に撮影されました。此の彗星は北極から 4 度半ほどの近くを通過し、8 ヶ月間も觀測されました。Reid 氏の第三彗星(1921 V)は 1922 年一月に発見されましたが、之れは近日點を前年の十月に通過したものであります。此の星の事については後に又申しませう。Reid 氏の第四彗星は 1924 I で其の年の三月 30 日に発見されました。之れの光りが最も強かつた頃は歐洲から見えませんでした、南半球では 6 ヶ月半の間、よく觀測されました。

『1925 年さいふ年は、Crommelin 博士が言はれます如く、彗星のためには實は驚くべき年 (annus mirabilis) でありまして、其の年に十二個以上の発見がありました。尙此の年に、近日點を通過した彗星の數も十一個に上つて居ります。わが Reid 氏は、特に申すまでもなく、勿論此の多數の彗星発見の中に相當の割り前を持つてゐるのでありまして、即ち三月 20 日に 1925b 星を発見しました。之れは其の後四ヶ月目に近日點を通過しましたが、前後凡そ二ケ年の間觀測が行はれました。其の光りの最も強い時は肉眼にも見えましたが、Merfield 氏が計算した所に據ります、軌道に楕圓形で、週期は 6910 年と言はれて居ります。

『Reid 氏の第六彗星は 1926 VII でありまして、1927 年一月 21 日に之れが発見されました時には既に近日點を通過した後でありましたため、觀測は全く南半球に限られて居りました。

『かうした度々の発見のレコードは實に見事なものであることを、満場の會員諸員も御賛成下さると思ひます。彗星さいふものは決して容易に手に入る獲物ではありません。尤も、稀には、單に望遠鏡ででたらめに天空を捜しまはつてゐるに、彗星がふと視野の中に飛び込んで來るこ

もあります——例へば有名な1892III彗星は故 Holmes 君が決して彗星を捜してゐたのではないのに會々見つかつたものであります。しかし、一般に言へば彗星は非常に永い間の忍耐と持久の賜さして見つかるものであります。故に Reid 氏の発見物語は南アフリカの観測天文学に光彩を放つものであります。之れを比較して見ますと、我が英國に於いては、過去75年間に僅々4個の彗星が発見されたに過ぎません。尤も之れには我が國(英國)の曇天の多いところが其の原因の一部には違ひありませんがしかし空氣の透明さから言へば世界の他の部分も多くは英國ぐらゐであります——第十八世紀末の Caroline Herschel のやつた多くの発見を想ひ起します——とにかく発見のために費される天空搜索の長時間なとから考へて見ますと、吾々英國の観測者たちは一般により確定的な結果の揚りさうな仕事に多くの努力を拂ふやうに思はれます、しかし、とにかく、かの1921V彗星が Reid 氏によつて発見されたよりも數ヶ月以前の近日點通過の頃光りは可なり明るくて観測には好都合であつたらしいのに拘らず、こちらでは全く見付けられず、ずつと南に走つてから始めて熟練な Reid 氏に発見されたところは、實に吾々北方の観測者の恥しななければならない所であります。

『勿論、人は誰でも——他の技には如何に熟練であつても——善良な観測者となることは言へせん。必らずや、良い彗星搜索者には或る特殊な素質が必要であります。前にも私は忍耐と持久の事を申しました。しかし、同時に、観測者は又望遠鏡の視野の中を去來する種々の天體を見るために、鋭い眼と敏捷な判断力が必要であります。天空を搜索中に、やゝもすれば微光彗星の如き淡いものを見逃すことがあります。Reid 氏の言によれば、望遠鏡の視野の中央に置かれた彗星を、朋友たちが見付けることの出来ないやうなものを、氏は時々搜索中に見付け得るほど、其の眼は彗星に敏感であるそうであります。

『Reid 氏の業績は多く観測者間にも氏を名譽の地位に置き、氏は南アフリカ天文学會の會長にあけられたところもあります。今回わが評議員會が氏に賞牌を授與するに至りましたところについて、會員諸君は必ずや熱

心に賛成して下さるこそ信じます。数日前、私は Cape の国立天文臺長から愉快なる手紙を貰ひましたが、其れによりますと、此の賞牌授與の事が「Capeタイムス」紙に載せられた日、氏は此は此の評議員會の決議に大變喜ばれた由であります。臺長の言によれば、氏は又南アフリカに於いて、彗星搜索に従事する他の人々を個人的に獎勵まして、間接に此の人々の發見成功を助けた由であります。ところが、こゝに特に遺憾なことは、Reid 氏が目下病氣重態でありまして甚だしく苦痛を味はれて居ります。「此の賞牌のニュースが氏をひざく喜ばせました」と、臺長は書いて居られます。

『Jackson 博士よ、私は今此の賞牌を貴君に渡し、Reid 氏へよろしく御傳へを願ひますと共に、氏の業績に對する吾々の賞讃の意を病氣の治癒と健康の回復のための吾々の希望を氏に傳へ下さることを望みます。』

(拍手)

## 去る六月三日の月蝕観測

六月三日の皆既月蝕を観測するため、京都大學天文臺では其の前々日に打ち合はせ會を開いた。そして下の如く部署を定めた。――

三十センチ機	(1) 30センチ大レンズで眼視及び寫眞観測	中村 要	} 時計70
	(2) 16センチ反射鏡で寫眞撮影	渡邊敏夫	
十八センチ機	(3) 18センチ大レンズで眼視観測	上田 穰	} 時計75
	(4) 6センチ・ファイnderで眼視観測	森川光郎	
三十三センチ機	(5) 33センチ反射鏡で眼視観測	柴田淑次	} 時計460
二十五センチ機	(6) 25センチ反射鏡	} 稻葉通義	} 時計59
	(7) 5センチ寫眞機		
中村十六センチ機	(8) 16センチ反射鏡で眼視観測	上島 昇	} 時計59
	(9) 5センチ屈折鏡で眼視観測	福本正人	
小山十三センチ機	(10) 13センチ反射鏡で眼視観測	小山秋雄	
十センチ機	(11) 10センチ赤道儀で眼視観測	伊藤誹語	
山本十センチ機	(12) 10センチ屈折機で眼視観測	山本一清	